

Global Asia Education Program (Formen name: ABP sub-major) (Annual Report(2nd semester, 2019-1st semester, 2020) VIII Asia Bridge Program)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比留間, 洋一, 藤巻, 義博 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028206

グローバル・アジア特別教育プログラム（旧ABP副専攻）

比留間洋一¹／藤巻 義博²

1. 本年次報告の目的

令和2年度、全学的な「特別教育プログラムの導入」に伴い、ABP副専攻（平成27年度～）がグローバル・アジア特別教育プログラムへと改称した。ABP副専攻の過去5年の総括については本紀要の比留間論文に詳しい。ここでは、令和元年度後期と令和2年度前期の実施状況について報告する。

2. 令和2年度の履修登録者数：増加した主な理由

令和2年度のグローバル・アジアへの履修登録者数は31名（2020年9月11日時点）と増加した。様々な理由が考えられるが、少なくとも次の2点が重要であろうと考えている。

令和2年度 学部学科別履修登録者

学部	学科	人数	計
人文社会科学部	社会学科	4	8
	経済学科	2	
	法学科	1	
	言語文化学科	1	
教育学部	英語教育専修	2	4
	技術教育専修	1	
	学校教育教員養成	1	
理学部	化学科	1	1
農学部	生物資源科学	4	5
	応用生命科学	1	
地域創造			0
情報	情報社会学科	4	7
	行動情報学科	3	
工学部	電子物質科学科	2	6
	機械工学科	2	
	電気電子工学科	1	
	化学バイオ工学科	1	
計		31	31

(1) 広報：①「ESP I（留学）」、②
オンライン説明会

2020年前期に大学教育センターが新規開講した「ESP I（留学）」³の受講生（静岡49名、浜松32名）をターゲットとした広報活動をおこなった。当該科目の受講生は英語能力の点で、本プログラムの履修登録要件を満たしているからである。具体的には、当該科目の授業の一環としてグローバル・アジア特別教育プログラムについての紹介を行った。特に比留間が担当した静岡のオンデマンド授業では本プログラムの説明資料（英語）を配布し、課題として質問と感想を英語で提出させた。その後、受講生からの26の質問に対して回答したQ&A集を受講生に送付した。結果的に、次に述べるオンライン説明会后、「ESP I（留学）」受講生のうち、静岡側で9名、浜松側で1名が本プログラムに履修登録をした。

もう1つは本プログラム説明会の充実化である。コロナ禍に伴い、両キャンパス同時に2回（7月21日火

曜、22日水曜いずれも12:00-12:40)、オンラインで開催した。オンライン開催により、説明会参加への敷居が低くなったためか、結果的に昨年度よりも多くの学生が説明会に参加した。また内容面も昨年度よりも工夫を凝らした。内容(目次)は次の通り。1. プログラム(概要)の紹介、2. 学部別履修モデル例の紹介、3. 県内企業アンケート結果にみるプログラムへの高い評価、4. 履修生の声の紹介(2019年度、海外企業研修報告書より)、5. TOEIC中止に伴うプログラム登録基準(英語要件)の変更について、6. 履修登録の方法、7. FAQ、Q&A。結果的に、説明会開催後、1週間(7月末まで)の間に、21名(「ESP I(留学)」受講生を含む)が履修登録をおこなった。

(2) 英語要件の変更

コロナ禍に伴い、今年度は本プログラムの履修登録に必要な英語力が若干低くなったことも一つの理由と考えられる。国際連携推進機構では協議を重ねた結果、今年度の英語要件を変更し、8月下旬に全学の1年生全員に一斉メールを配信した(以下の枠線内にその一部を転載する)。このメール送付後、約1週間(9月7日まで)の間に、6名が履修登録をおこなった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため前学期TOEICは延期となりました。それに伴い、グローバル・アジア特別教育プログラム(旧ABP副専攻)の英語要件の取り扱いについて、以下4点ご案内させていただきます。

1. グローバル・アジア特別教育プログラムの登録、及び、ABP関連科目の履修について

(1) これまでは、TOEIC®L & R 550点以上の英語力を要件としていましたが、今年度後期は英語科目部運営委員会による対応に基づく以下の表1のレベル分けのうち、必修「英語コミュニケーション」(1年前学期開講)(※2)の中級以上、すなわち履修条件(TOEICスコア)500点台(500~599)以上を、グローバル・アジア特別教育プログラムの登録、及び、ABP関連科目の履修の要件とします。

シラバスに履修要件「TOEIC 550点以上」と記載されていても、今回の措置が適用されます。つまり502点、602点なら履修可能です

なお自分の英語レベルについては、学籍情報システムのTOEICスコア欄で確認することができます。中級レベルは「502」点、上級レベルは「602」点と入力されています。

3. 令和元年度後期及び令和2年度前期の授業

3. 1. 個別分野科目及びAL(学際)科目の受講者数

表のうち、AL(学際)科目は、「東南アジアセミナー」と「Global Business Studies」の2科目である。この2科目の受講生が他よりも多い理由は、ABP留学生の必修となっているためである。

令和元年度後期 受講者数

単位：名

科目名	担当教員	受講者数 (静岡)	受講者数 (浜松)
ABP-EN 現代の社会	渡部真理子	6	—
ABP-EN 生命科学	DEO VIPIN KUMAR	1	—
ABP-EN ことばと表現	澤野亜美	27	12
ABP-EN 進化と地球環境	宮崎さおり	—	3
ABP-EN 自然と物理	MOBEDI MOGHTADA	—	12
ABP-EN 生活の科学	原芳久	7	—
ABP-EN 法と社会	土生英里	6	9
ABP-JP 東南アジアセミナー	比留間洋一	—	19
ABP-EN Global Business Studies	藤巻義博	16	25

令和2年度前期 受講者数

単位：名

科目名	担当教員	受講者数 (静岡)	受講者数 (浜松)
ABP-EN 哲学	久部和彦	14	—
ABP-EN 生物と環境	DEO VIPIN KUMAR	8	—
ABP-EN 生活の科学	原 芳久	—	7
ABP-EN 国際社会と日本	渡部真理子	25	3
ABP-JP 東南アジアセミナー	比留間洋一	—	22

3. 2. 海外研修の中止（延期）

昨年度（令和元年度）は「海外で活躍する日本のグローバルリーダー（ブリッジ人材）に会いに行こう」と題して、現地ベトナムで活躍する企業人の講義を6名の学生に聞かせた。更にハノイ国家大学外国語大学の学生や現地の日本語学校の学生との異文化交流の機会を持ち様々な体験をさせた。その結果学生の研修後の成長は目に見はるものがあり、そのことから今回従来の海外研修からコンセプトとコンテンツを変えた試みは大きな成果をあげたと考えている。

そこで本年度（令和2年度）は更に研修を充実させる為に、昨年度の研修の基本的な考え方を踏襲しつつ、より教育効果をあげることを考えて研修を企画した。まず企画当時（3月）新型コロナウイルスの影響が企業経営に影響を及ぼすことを考え、「コロナ禍の日本企業のグローバル戦略研究」と題してウィズコロナに対応する日本企業のグローバル戦略を調査研究するものとした。その為に現地研修を2020年9月に行う前に5月より毎月1回現地訪問する企業等について事前勉強させることにした。更に新型コロナウイルスの影響が長引くことも考え、9月の研修を2月に延期することにした。

しかしその後日毎に新型コロナウイルスの感染が拡大し、政府も緊急事態宣言を検討していると

の情報から、万一現地に渡航出来なくともオンラインでできる様な内容、体制を整えることを検討し始めた。しかし現地に行かずオンラインでやることにどれだけ教育効果があがるのか、異文化体験ができるのかとの考えが強くなり、また学生達もこの状況下現地に行くことに不安を持っていることが分かった。そうした中、学内関係者と相談した結果、残念ながら本年度はやむなく中止することを決断した。まだまだ収束の兆しが見えないが、来年度は研修の企画をより工夫しながら海外研修を実施していくことを検討していきたい。

3. 3. ABP 修了研究

本プログラムにおける修了研究の位置づけについては昨年度の年次報告に詳しい。ここでは、令和元年度後期と令和2年度前期の修了研究の概要について報告する。

令和元年度後期の修了研究として、令和2年1月28日に浜松キャンパスで2名、1月29日に静岡キャンパスで2名、1月30日に静岡キャンパスで1名がポスター発表を行なった。なおポスター、発表、質疑応答はすべて英語で行った。その内訳は以下の表の通りである。

令和元年度後期 修了研究

発 表 者	指導教員
教育学部芸術文化課程4年	機構教員 藤巻
情報学部／情報社会学科4年	教育学部教員 澤野亜美
人文社会科学部言語文化学科4年	学長補佐室／人文社会科学部教員 ダリウス・グレニジ
人文社会科学部法学科4年	機構教員 比留間
情報学部行動情報学科3年	機構教員 比留間

令和2年度前期の修了研究としては、令和2年7月31日に浜松キャンパスで以下の1名がポスター発表を行なった。新型コロナ感染拡大対策として、ポスター発表の様子をZoomでリアルタイム配信したが、静岡キャンパスからの参加者も増え、令和元年度後期の各発表よりも盛況となった点は良かった。更に調査研究に協力した地元企業の方々も参加することが出来て、貴重なコメントをもらうことができた点は新たな試みとして良かった。

令和2年度前期 修了研究

発 表 者	指導教員
情報学部情報社会学科3年	機構教員 藤巻

¹ 本報告書では特に全体の取りまとめを担当した。

² 本報告書では特に「海外研修」「ABP 修了研究」の執筆を担当した。

³ 大教センターが国際連携推進機構と連携して2020年度に新設。シラバスより、授業の目

標は「これまで身につけてきた英語力を基礎とし、留学に必要な知識を身につける」(静岡。浜松側もほぼ同様)、受講要件は「英語コミュニケーションで中・上級クラス履修者」である。